

授業科目(ナンバリング)	介護実習 I (DD213)			担当教員	大町 いづみ 浦 秀美 久田 貴幸		
展開方法	実習	単位数	4 単位	開講年次・時期	2年・集中	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本実習では、地域における様々な生活の場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。また、利用者の人間的ふれあいを通じて、利用者を理解し、支援する姿勢を養うことを目標とする。利用者個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、本実習では障害者施設・介護施設の場において個別ケアを実践するための観察と情報収集のポイントを理解し、個々に応じた介護を理解するとともに、利用者・家族とのコミュニケーションの実践を行う。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とするために、介護技術の確認や多職種協働や連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割についても理解していく。また、介護や福祉を通して幸せを願い、利用者と共に生きる姿勢を身につける事ができることもねらいとしたい。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている（介護福祉士としての）専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							④⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・特養、老健、社協を利用している高齢者の特性を説明できる。 ・介護実習における積極的な姿勢について説明できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習評価 ・巡回指導 	50% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活リズムを把握したうえで、課題を指摘できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習評価 ・巡回指導 	5% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・礼節ある態度を利用者や施設職員に対し表現できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習評価 ・巡回指導 	10% 5%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で働く職員の職種と役割を理解したうえで、協調できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導 	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>介護実習評価（65%）、巡回指導（35%）で評価する。</p> <p>長崎国際大学実習要綱に記載されている、実習評価項目（実習態度・意欲・実習内容・実習状況）や、実習日誌提出状況、実習日誌内容、自己評価などから実習指導者と協議しながら、最終的に担当教員が評価を行う。なお、担当教員における実習に関する指導は、巡回時に行い、記録物はポートフォリオ上にてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>介護実習 I は夏期(11 日間)・春期(12 日間)に合計 23 日間の実習を行う。</p> <p>実習先は障害者施設、介護施設等とし、本学と実習受け入れを契約している施設の実習受け入れ可能人数等から配属先を検討し配属する。</p> <p>実習中は、実習指導者や職員からの指導を随時受け、利用者とのコミュニケーションを図ったり、介護を実践する。利用者との人間的な触れ合いの中で、日常生活や個性を理解しながら、基本的な日常生活支援実習を行う。同時に、介護の機能や実習施設職員の役割についても学んでいく。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習』中央法規出版株式会社</p> <p>参考書：長崎国際大学介護実習要綱</p> <p>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習』中央法規出版株式会社</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

実習は様々な生活支援技術を習得する場でもありますが、社会生活を学ぶ場でもあります。生活支援についての知識と技術の確認を行うとともに、社会人としての礼儀・マナーを身につけて実習に望むことを期待しています。

また、実習中に多くの利用者と関わりだけでなく、施設職員とも関わりを多く持ち、コミュニケーション能力を向上させるための学びとして欲しいと考えています。ボランティアへの参画や世代の異なる人々との関わりを積極的に行い、本実習に臨んでください。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の様々な暮らしの場を理解する。 2. 様々な利用者に出会い、思いや願いについて理解する。 3. 利用者及びその家族とコミュニケーションが取れる。 4. 介護実践、介護の状況について見学、一部実践により理解を深める。 5. <u>多職種協働の実践</u>の見学により、介護福祉士の役割や専門性について理解を深める 	<p>実習時期：8月～9月、2月に計23日間 実習配属先：障害者氏設、介護施設等 実習内容：以下の通りである（長崎国際大学介護実習Ⅰ要綱より抜粋）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設のオリエンテーションを受ける。 2) 様々な利用者の生活を見学する 3) 利用者の多様なニーズを知る。 4) 利用者、家族の個々に応じたコミュニケーションの実際と工夫について知る。 5) 様々な利用者とのコミュニケーションを通じ個別性について理解する 6) 倫理的配慮について理解する。 7) 利用者個々のニーズに応じた介護の実際を知る。 8) 申し送りやカンファレンス、サービス担当者会議等の実際を知る <p>本実習は、介護総合演習Ⅰと連動させながら実施する。</p>	<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習計画に基づいた日々の目標を実習前に設定する。 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員、実習指導者や施設職員からの指導内容を実習記録用紙に反映させ記録する。 ・担当教員、実習指導者より返却された実習記録を見直し、指摘された部分やコメントを求められている部分について修正する。 ・今後の達成目標の変更や修正がないか検討する。 ・実習を通して学んだことをテーマを決めてまとめ、考察し、自己の課題を明確にするとともに、さらに学びを発展させる。